

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成26年12月2日 NO.28

長谷さん! ありがとうございます。

12月1日の朝は、6月の全校朝会でもお話しした『長谷^{はせげんき}元喜くん』のお父さん・お母さんである長谷智喜様・かつえ様ご夫妻をゲストティーチャーとしてお迎えし、「命の大切さ」「交通安全」についてのお話をさせていただきました。子ども達はみんな、長谷さんのお話を真剣に聞くことができ、その態度は大変立派でした。今回のお話を通して、自分の命を大切にすること、交通事故には絶対に合わないよう気をつけることを改めて学ぶことができましたと思います。また、見守り会や保護者の方々もご参加して頂きありがとうございました。

朝会終了後、「命の大切さ」という題で作文を書いてくれた児童がいましたので、以下ご紹介させていただきます。

わたしは、今日の話を聞いて、命は一度なくしたら二度とかえってこないものだと思わなければならないと思いました。

あの時、車がとまっていれば、ちゃんと子どもが見えていればこのようなことになっていなかったと思います。

車もほこうしゃも青だからと、思っただけで、いざという時に、命をなくさないために、車もほこうしゃも周りを見ておけば、事故を少なくできるかもしれないし、もしくは事故がなくなるかもしれないと思います。

事故がなくなれば、町の人はえがおでくらすと思う。赤でわたれば事故のきけんが高くなる。だからいままでに赤でわたってしまった人は、これからはわたらなければいいと思う。それが長谷さんの一番の望みだと思おう。

(H・U)

ぼくは、げんきくんの話を聞いて、命は失ったらもどらない大切な物だということが改めて感じました。げんきくんは信号がちゃんと青になって車が止まったのを見てからわたったのに、ダンプカーにひかれてしまったのは、ちゃんと見ていないダンプカーの運転手にもんだいがあったと思いました。

でも、げんきくんのお父さんは一度、自分も死んでしまおうと思っただけで、前向きに考えてほかに事故がおこらないように、どうしたら良いか考えて、それをけいさつなどにこうしたらいいと言ったのがすごいと感じました。

そのげんきくんのお父さんはげんきくん以外にも同じような事故がおこらないようにと、考えていたと思います。ぼくも大切な命を失わないように、交差点などではこれからも気をつけようと思います。

(U・K)

わたしは、「命の大切さ」の話について、こう思いました。

はじめに校長先生が命は大切なもの、一度なくしたらもどってこないものと言っていました。わたしもそう思いました。それに、長谷さんの話を聞いて、もっとも大切なものなんだと改めて思いました。

げんきくんは、とてもすなおでやさしい子だと思いました。それにとってもしんちょうな子とも思っています。げんきくんは、なぜ事故にあわないといけなかったんだろうと思います。長谷さんもそう思ったと思います。でも、長谷さんは、げんきくんがなくなった悲しみだけで終わらせなくて、他の子どもたちにはあんな思いはさせたくないと思っただけでいいなと思います。

わたしは、一つしかないこの命を大切にしようと思えました。

(A・H)